Ⅶ.成績評価ガイドライン（2018 年度以降入学生向け）

本学では教育の基本理念として、「科学的市民（豊かな人間性とともに、基盤能力と専門性を併せ持ち、専門職としての役割を主体的に果たせる人材）の育成」を掲げています。この理念の実現に向けて、本学では下表のような方針等を策定・公開し運用しています。

（教育理念実現のための方針等）

大学全体	教育理念	科学的市民（豊かな人間性とともに、基盤能力と専門性を併せ持ち、専門職としての役割を主体的に果たせる人材）の育成
学科ごとの教育プログラム	人材養成の目的	学部・学科で養成する人材像を表したもの
	ディプロマ・ポリシー	卒業までに身に付ける能力・資質を項目別に明示したもの。 4 年間または 6 年間の大きな学修目標
	カリキュラム・ポリシー	卒業時のディプロマ・ポリシー達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、どのように学修成果を評価するのかを定めたもの
	カリキュラム	卒業時のディプロマ・ポリシー達成を目指して編成された教育課程（授業科目の構成）
	カリキュラム・フロー	ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにした図
授業科目	シラバス	・ディプロマ・ポリシーと科目との関係、単位修得のための達成目標 ・時間外学修を含む授業計画 ・達成度を評価する方法と成績に対する比率

（各学科の情報は HUS ナビの教務ブックに掲載）

大学での学修の仕組みにおいて基本的な構成要素となるのは各授業科目です。本学では、個々の授業科目において、ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連性を意識し、達成目標にふさわしい客観的な評価方法を用いて、厳格かつ公正に成績評価を行います。本ガイドラインは本学における成績評価の指針等を定めたものです。

なお、本ガイドラインの内容は HUS ナビの教務ブックや、在学生に関する諸規程において定められていますので、参照してください。

１．成績評価のガイドライン

〇本学のディプロマ・ポリシーは、大学を卒業した者に対して社会から求められる能力・資質（学士力、社会人基礎力、学力の 3 要素等）を意識した全学共通の項目によって観点別に作られています。

〇各授業科目の達成目標は、ディプロマ・ポリシーの各項目の内容や観点と対応づけて設定されています。

※薬学部の科目では薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応を示す SBOs が授業の到達目標として設定されており、SBOs を観点別にまとめてディプロマ・ポリシーの項目と対応させています。

〇これにより各科目の達成目標（到達目標）も観点別に設定されていることになります。

〇各科目の成績評価においては、達成目標（到達目標）の観点にふさわしい手段を用いて達成状況を評価します。具体的には､｢知識･理解｣に対応するものの達成状況は主に試験を用いて評価しますが、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」「技能」に対応するものについては、レポート、発表、作品などを用いたパフォーマンス評価を行います。

〇達成目標（到達目標）とディプロマ・ポリシーの項目との対応、及び達成目標（達成目標）ごとの成績評価手段とその比率については、次の形式でシラバス上に明示します。
＊学部により方法が異なります。

工学部・保健医療学部・未来デザイン学部のシラバス

●ディプロマ・ポリシーと達成目標の関係の例

４．ＤＰ（学位授与の方針）との対応

☑ １．コミュニケーション力
論理的な思考力、記述力、発表と議論の能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

☐ ２．課題を発見し、問題を解決する力
数理能力を含めた専門的な知識を獲得し、情報機器を用いて情報を正確に伝えることができ、論理的に分析・思考することができる。

☑ ３．自らを律し、学び続ける力
目標達成に向け計画的に行動する能力を有し、知識から知恵へと転換できるように、能動的学習を通して考え行動することができる。

☐ ４．他者と協力して目的を達成する力
人類、文化の発展、歴史的背景を理解し、諸問題解決のために必要な知識を持ち合わせ、他者と協力しながら活用できる。

☐ ５．専門的知識・技能を習得し、実践する力
機械工学に必要な知識と技能を獲得し、機械工学分野の実験を計画・実施及び解析、レポートにまとめることができる。

☐ ６．総合力
複雑な工学的問題を解決する能力及び表現力を備え、将来機械技術者として必要な専門分野を統合・発展させることができる。

５．達成目標

番号	DP	達成目標
①	3	北海道科学大学の歴史、沿革、社会的役割について基礎知識を持ち、レポートとして整理できる。
②	3	学科の３ポリシーとカリキュラムを理解し、レポートとして整理できる。
③	3	専門分野での学びの内容について理解し、レポートとして整理できる。
④	3	将来の進路選択，職業選択に関し、現在の自分の考えをレポートとして整理できる。
⑤	1	専門分野に関するテーマを設定し、その内容について他者に分かり易いように調査・報告できる。
⑥	1	協働作業を通じて、自分の意見を述べるとともに、他者の有り方や主張を理解できる。

●達成目標と成績評価手段と比率の関係の例

７．試験および成績評価の方法									
達成目標	DP	試験	小テスト	宿題	パフォーマンス			その他	計
					レポート	発表	作品		
①	3				15				15
②	3				15				15
③	3				15				15
④	3				15				15
⑤	1					20			20
⑥	1					20			20
⑦									0
⑧									0
⑨									0
⑩									0
計		0	0	0	60	40	0	0	100

薬学部のシラバス

●ディプロマ・ポリシーと達成目標の関係の例

DP（学位授与の方針）との関連	□1. 患者・生活者や他の医療関係職種と適切なコミュニケーションを取れる態度・能力を有している。 □2. 問題発見・解決能力のために必要な、多面的に物事を見る力、論理的思考力、情報分析力を有している。 ☑3. 生涯にわたって研究研修・研鑽を継続するとともに、医療を担う次世代の人材を育成する意欲と態度を有している。 □4. 他の医療関係職種と連携・協力して地域住民の健康増進、公衆衛生に貢献できる能力を有している。 ☑5. 基盤能力とともに薬剤師に必要な知識・技能・態度を修得し、適切な薬物療法や薬学的管理を実践できる能力を有している。 □6. 豊かな人間性とともに、基盤能力と専門性を併せ持ち、専門職としての役割を主体的に果たすことができる。

●達成目標と成績評価手段と比率の関係の例

(SBO)	ＤＰ	試験	小テスト	宿題	パフォーマンス			その他	計
					レポート	討論	課題		
1～19	5	50							50
2～23, 25, 26	3, 5				35				35
20, 21, 23, 24, 26	3				10				10
24, 26	5					5			5
計		50			45	5			100

〇成績評価は絶対評価で行うこととします。シラバスに明示した評価手段と比率を用い、評価の合計 100 点に対する 60 点を合格基準とします。成績評価区分は次の通りです。（工学部・保健医療学部・未来デザイン学部履修規程第 16 条、薬学部履修規程第 8 条）

●工学部・保健医療学部・未来デザイン学部

得点	GP 表記	GP	成績区分	合否
90～100	S	4	秀	合格
80～89	A	3	優	
70～79	B	2	良	
60～69	C	1	可	
0～59	D	0	（不可）	不合格

＊失格の場合は X とする。

●薬学部

得点	評価区分	成績指標
90～100	S（秀）	4
80～89	A（優）	3
70～79	B（良）	2
60～69	C（可）	1
0～59	D（不可）	0

〇卒業研究の評価については、学則第 12 条第 2 項に従い、成果を含めた評価の手段と基準を学科会議等で組織的に検討します。

〇アセスメント・ポリシーに則り、達成目標、評価手段と比率、成績評価分布、成績評価で使用した資料などを学科教育自己点検会議にて組織的に点検し検討することで、客観的、厳格かつ公正な成績評価を行うための不断の改善・改革を行います。

２．ＧＰＡの活用

〇GPA とは…わが国の大学で標準的に用いられている成績評価指標であり、各科目の成績から特定の方式によって算出されます。具体的には次のとおりとなります。

●工学部・保健医療学部・未来デザイン学部の GPA（履修規程第 17 条）

（１）当該セメスタでの学修結果に対する GPA-S（＝GPA for Semester）

（２）当該セメスタまでの学修結果に対する GPA-T（＝GPA for Terms）

GPA 算出対象科目は履修登録した科目である。ただし、教職科目及び単位認定された科目は除く。

$$\mathrm{GPA} = \frac{\text{科目の}(\text{単位数} \times \mathrm{GP})\text{の総和}}{\text{履修登録し、評価を受けた科目の総単位数}}$$

●薬学部の GPA（履修規程第 9 条）

（１）当該学期での学修結果に対する GPA-S（＝GPA for Semester）

（２）1 年次から当該学期までの学修結果に対する GPA-T（＝GPA for Terms）

$$\mathrm{GPA} = \frac{\text{科目の（単位数×GP）の総和}}{\text{履修登録し、評価を受けた必修科目の総単位数}}$$

ただし、（１）、（２）どちらの場合も、自由科目及び学則第 19 条の規定により認められた単位については、GPA の対象から除外する。

〇GPA を用いた指導、注意警告、退学勧告

●工学部・保健医療学部・未来デザイン学部

GPA-S の値が連続したセメスタで 1.00 を下回る場合、段階的に指導、注意警告、退学勧告を行います。（履修規程第 18 条）

●薬学部

GPA-S の値が連続したクォーターで 1.30 を下回る場合、段階的に指導、注意警告、退学勧告を行います。また、同一学年次に２回原級留年となった者にも退学勧告を行います。（履修規程第 19 条）

３．履修上限単位数

単位の実質化*を考慮し、認定科目を除く卒業要件に含まれる全ての科目を対象として、各学年次とも履修登録単位数の上限を設定します。

●工学部・保健医療学部・未来デザイン学部

1 セメスタあたり 22 単位を上限とします。（履修規程第 6 条第 4 項）

＊なお、2020 年度入学生からは、GPA-T3.50 の学生は所定の手続きを行うことで、
履修上限単位数を 2 単位超えて履修することができます。

●薬学部

年間 40 単位を上限とします。（履修規程第 4 条第 5 項）

＊「授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容を持って構成する」と定められています（学則第 12 条）。例えば講義科目は 15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位となりますが、45 時間に対して不足する分の学修は事前事後学修として授業時間外に行う必要があります。本学のシラバスでは、科目ごとに事前事後学修の内容と時間を明示していますので、必ず確認の上、取り組んでください。

４．追加合格、仮進級

履修した科目はすべて単位を修得することが求められますが、残念ながら不合格になってしまった場合、一定の条件を満たすことで以下の措置が認められることがあります。

〇追加合格（工学部・保健医療学部・未来デザイン学部）

1 年～3 年次後期までの開講科目で GP 表記が D であった場合、科目によって翌学期始講から 1 か月以内に追加合格（未提出レポートの提出等による）が認められることがあります。（HUS ナビの履修ガイドを参照）

〇仮進級（薬学部）

1 年～5 年次の進級審査時において、失格科目又は未修得単位があっても、一定の条件を満たせば、上位学年に仮進級します。（履修規程第 16 条）